

龍谷大学

# 佛教学研究室年報

第 25 号

卷頭言

- 古ウパニシャッドにおける√smṛ 派生語の思想的特徴について  
橋本 一道 ..... 1
- 開城・仏日寺戒壇の意義  
李 鎮榮 ..... 26
- 『摂大乘論』第 VII 章「増上心品」註釈文献の翻訳研究 (1)  
嶋本 弘徳 ..... 44
- 現地考察の結果：台湾三箇所の媽祖廟を巡り—媽祖信仰と中国仏教—  
張 凱 ..... 73
- ミャンマー国家僧統委員会編『比丘尼についての裁定資料』(*Bhikkhunīvinissaya Sardan*) 翻訳と注解 (前編)  
サッチャーナンディー ..... 98
- 南伝上座部における縁起説と輪廻の関係性  
志智 昭良 ..... 130
- <研究ノート> 護法者としてのチャンダーラ  
—『大般涅槃経』の密教的要素に関する一考察—  
安川 真由 ..... 150

彙報

令和 3 年 3 月

# 龍谷大学仏教学院学生会則

## 第一章 総則

第一条 本会は、龍谷大学仏教学院学生会と称する。

第二条 本会は、院生の自治を基本として、学問の自由を擁護し、龍谷大学仏教学院院生の研究活動の向上に努め、会員相互の親睦を図ることを目的とする。

第三条 本会は、執行部を京都市下京区七条大宮龍谷大学仏教学研究室内に置く。

## 第二章 会員

第四条 本会は、次の会員を以て構成する。

一、正会員 龍谷大学大学院仏教学専攻に在籍するもの。

二、準会員 本会の主旨に賛同し、特に本会に認められたもの。

三、賛助会員 本会の主旨に賛同し、財政面での支援という形で協力するもの。

## 第三章 総会

第五条 総会は、本会の最高議決機関である。

第六条 総会は、本会の正会員をもって構成する。

第七条 総会は、正会員の三分の一以上の参加をもって開催することができる。

第八条 総会は、会長がこれを招集し、次の場合に開催される。

- 一、定期総会（毎年四月）
- 二、会長が必要と認めた場合。
- 三、正会員の五分の一以上の連署による請求があった場合。

第九条 総会における決議は出席会員の過半数の同意を必要とする。

## 第四章 執行部役員

第十条 本会は、次の役員をおく。

- 一、①会長一名②副会長一名③会計一名④編集委員一名⑤会計監査一名⑥文学部院生協議会代表委員一名
- 二、ただし、①③以外の兼任はこれを妨げない。

第十一条 会長は、会員の推薦により総会の承認を得る。又、役員は、総会において正会員より選出する。

第十二条 会長は、本会を代表し、執行部は統括する。

第十三条 役員は、一年とし、再任並びに兼任を妨げない。

## 第五章 事業

第十四条 本会は第二条の目的を達成する為、次の事業を行う。

- 一、研究発表会、講演会等の開催並びにその援助。
- 二、出版物の刊行。
- 三、会員親睦に関する事業。

第十五条 第十四条一、二、の事業に関しては次のとおりを行う。

一、原則として正会員は、年一度研究発表をするを前提とし、その発表の場として定例研究発表会を行うものとする。

二、研究発表に関しては、次のとおりを行う。

イ、修士課程（以下Mと略す）一年は、一年間を発表適予期間とみなし、翌年度初頭における研究過程報告会にて発表を行うものとする。

ロ、M二年以上は、修士論文提出前に行う中間発表をもって、これにかえることができる。但し、該当年度の論文提出を行わないものも、研究経過の発表をもってこれにかえることができる。

ハ、博士後期過程（以下Dと略す）は、何等かの研究雑誌に活字化された論文の発表を行う。

ニ、但し、D一年は、修士論文要約（『大学院紀要』に掲載分）をもってこれにかえることができる。

三、第十四条二の内、年一回は、研究雑誌の発行を行うものとする。又、発刊に際しては、編集委員会を置き、本会執行部役員をもってこれを構成する。

イ、編集委員の内、編集委員長一名を互選し委員を統括するものとする。

ロ、但し、編集委員会が必要と認めた場合、

若十名の委員を、正会員より委員長が任命することができる。

## 第六章 会計

第十六条 本会の会計年度は、毎年四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第十七条 本会の経費は、還元金、会費、寄付金およびその他の収入とする。

正会員会費 年額 三、〇〇〇円  
準会員会費 年額 二、〇〇〇円  
賛助会員費 年額 二、〇〇〇円以上

第十八条 本会の決算報告は、監査委員の監査を受けた後、執行部が決算報告書を総会に提出し、その承認を得なければならぬ。

## 付則

一、本会則は、総会の決議により改変することができる。

二、本会則は、昭和六十年四月一日施行の龍谷大学仏教学院学生会則の一部を改変し、平成三年五月一日より施行する。

三、平成六年四月十八日、一部変更。

四、平成二十四年十二月十二日、一部変更。

五、平成二十五十二月十日、一部変更。

六、平成二十九年四月二十二日、一部変更。

## 巻 頭 言

龍谷大学佛教学會  
会長 楠 淳 證

『龍谷大学佛教学研究室年報』第25号が刊行の運びとなりました。36年前に、本誌の創刊（1985年）に関わったメンバーの一人として、感慨深いものがあります。

当時、龍谷大学仏教学の伝統誌である『仏教学研究』には、専任教員の原稿が主として掲載され、院生の論文は『印度学仏教学研究』『宗教研究』等に公開の場を求めるなど、掲載可能誌が限られていました。そのような中、当時の院生であった我々は、自らの研究発表の場を創出する決意をし、『龍谷大学佛教学研究室年報』を創刊いたしました。紆余曲折ある中、あれから36年経過し、第25号を自主的努力で発刊した院生諸君の研究への積極的姿勢に、心から敬意を払うとともに、さらなる研究の進展を衷心より願うものです。

時はあたかもコロナ禍の最中、前期は悲しいかな、登校禁止の処置が取られました。後期も感染リスクが喧伝される中で、心を励まして学問・研究に邁進してきた1年だったと思われまます。そのような中で提出された論文7点を見ると、着実な文献研究が大半を占めると共に、中には調査研究を背景にしたものも見られ、コロナ禍の中で院生諸君が可能な限りの研究努力を積み重ねてきた一端を窺うことができます。また、留学生諸君の意欲ある論文も複数点加わっており、現在の龍谷大学大学院のあり方を反映した国際色豊かな充実した号となっています。これは、創刊号当時では考えられなかったことで、誠に喜ばしい限りです。

コロナ禍にみまわれたとはいえ、これからの研究はより一層国際的なものとなり、世界を横断する学術共同体（コンソーシアム）が幾つも計画され、推進される時代になっていきます。そのような中で、380年の歴史と伝統を誇る龍谷大学出身の研究者が、将来的に国内外の研究機関で活躍してくれることを念願しつつ、巻頭の辞といたします。

2021年（令和3年）3月

# 彙報

(2020年1月～12月)

## 2019年度 仏教学院生会員研究発表題目

《2019年度 龍谷大學佛教學會 學術研究発表会》

2020年1月23日(木)

於：龍谷大学(西齋 2F 大会議室)

・魏 藝 (D2)

中国南北朝における浄土解釈について

・嶋本 弘徳 (D2)

菩薩の戒の甚深殊勝について -『撰大乘論』第VI章「増上戒学品」  
における意趣を中心に-

## 2019年度 仏教学院生会員研究業績

・小山 一太 (D3)

「メトロポリタン美術館所蔵「燃燈仏授記」浮彫図の図像解釈」

『印度學佛教學研究』(68) 2, pp.946-953, 2020年3月

・西山 良慶 (D3)

「法相論義「真報主」と源信の〈唐決〉-輪廻の主体をめぐる二  
大宗間の一大諍論-」

『龍谷大学アジア仏教文化研究叢書 13 日本仏教と論義』

pp.33-60, 2020年2月

「良算撰『愚草』についての一考察-法相宗の今ひとつの論義抄

-」

『印度學佛教學研究』(68) 2, pp.705-708, 2020年3月

「法相論義抄：良算撰『愚草』についての一考察－良算の述作と貞慶との関係を中心に－」

『岐阜聖徳学園大学仏教文化研究所紀要』第20号,  
pp.53-71, 2020年3月

・李 鎮榮 (D3)

「金山寺戒壇の舍利塔と年代」

『京都外国語大学 COSMICA』第49号, pp.39-55, 2020年1月

「遠願寺址石塔の四天王像・十二支像」

『京都外国語大学研究論叢』第94号, pp.63-80, 2020年1月

「陝川・靈巖寺址遺跡の考察」

『帝塚山大学考古学研究所研究報告』XXII, pp.19-43, 2020年3月

「蔚山・大和寺址十二支舍利塔」

『龍谷大学仏教学研究室年報』第24号, pp.65-82, 2020年3月

・魏 藝 (D2)

「中国南朝仏教の行位解釈に関する一考察－成実涅槃師を中心に－」

『龍谷大学佛教学研究室年報』第24号, pp.41-74, 2020年3月

・嶋本 弘徳 (D2)

「『撰大乘論』第VI章「増上戒品」への註釈文献の翻訳研究」

『龍谷大学佛教学研究室年報』第24号, pp.144-114, 2020年3月

・張 凱 (D2)

「媽祖と観音－文献と図像に基づく再検討－」

『佛教学研究室年報』第24号, 113-143, 2020年3月

## 2020年度 仏教学院生会員研究発表題目

### 《第三屆全球媽祖文化論文集・三等賞》

2020年6月6日(土)

於：中華媽祖文化交流協會

・張 凱 (D3) ほか合同発表

媽祖信俗對中日兩國人心相通的傑出貢獻

### 《日本印度学仏教学会 第71回学術大会》

2020年7月4日(土)

於：オンライン(創価大学主催)

・魏 藝 (D3)

中国南北朝期における無生法忍説の受容について  
一行位説を手掛かりとして一

・嶋本弘徳 (D3)

菩薩の戒の甚深殊勝について一『摂大乘論』第VI章「増上戒品」  
における教説の再構成を中心に

2020年7月5日(日)

於：オンライン(創価大学主催)

・隆 明 (D3)

李通玄における「入法界品」理解について一入法界衆を中心として

・劉 婷婷 (D3)

説一切有部の形色実有説について  
一衆賢の『順正理論』における形色の存在証明を中心に一

### 《第六屆國際媽祖文化學術研討會》

2020年10月24日

於：オンライン(國際媽祖文化學術研討會主催)

・張 凱 (D3)

觀音和媽祖：從<天妃誕降>看媽祖信仰

《部派仏教研究会》

2020年12月12日(土)

於：オンライン(大谷大学主催)

・志智昭良(D1)

南伝上座部における縁起説と輪廻の関係性

《2020年度 修士論文中間発表会》

2020年10月27日(火)

於：龍谷大学(東覺302教室オンライン併用)

・箆橋 麻衣子(M2)

良遍の浄土教思想の研究

・森 恵士(M2)

日本天台における円頓戒思想の研究

—法勝寺流と廬山寺流の比較研究を中心に—

・上司 一慶(M2)

『華嚴五教章指事』の研究

・王 若賓(M2)

唐代中大雲寺円暉の研究

—『楞伽經疏』(P.2198、S.5603)を中心として—

・戴 鶯(M2)

宋代における仏教儀礼の研究

—遵式の実践を中心に—

2020年10月29日(木)

於：龍谷大学(東覺302教室オンライン併用)

・浅井 教祥(M2)

ツォンカパの空性理解に基づく三無性説解釈

・犬塚 誠(M2)

律文献にみられる看病比丘因縁譚の研究

・ブイティ ニュット ミン(M3)

『中論』第12章「苦の考察」

—諸註釈書及び『十二門論』との比較を通して—

## 2020年度 仏教学院生会員研究業績

- ・ 大乘經典研究会 北山祐誓（研究生）・安川真由（D1）ほか  
「郁伽長者所問經の梵文佚文—Sūtrālamkāraparicaya「帰依品」より—」  
『インド学チベット学研究』第24号, pp.1–24, 2020年12月
- ・ 小山 一太（研究生）  
「「燃燈仏授記」説話における散華供養者の差異に関する一考察」  
『龍谷大学大学院文学研究科紀要』42, pp.21–31, 2020年12月
- ・ 李 鎮榮（研究生）  
「感恩寺址東西塔舍利容器の内函の考察」  
『龍谷大学大学院文学研究科紀要』42, pp.1–19, 2020年12月
- ・ 魏 藝（D3）  
「中国南北朝期における無生法忍説の受容について—行位説を手掛かりとして—」  
『印度学仏教学研究』（69）1, pp.198–201, 2020年12月
- ・ 武山 蓮弥（D3）  
「涅槃図に見られる勝音天子」  
『龍谷大学大学院文学研究科紀要』42, pp.32-47, 2020年12月
- ・ 張 凱（D3）  
「媽祖と観音—「天妃誕降本傳」の翻訳と図像に基づく再検討—」  
『宗教研究』第94巻別冊要旨, pp.283–284, 2020年11月

・萩野 翔太 (D1)

「日本天台における被接義の研究」

『龍谷大学大学院文学研究科紀要』42, pp.121-143, 2020年12月

・常 偉 (D1)

「『因明正理門論』注釈書の研究 —特に定賓撰『理門論疏』を中心として—」

『龍谷大学大学院文学研究科紀要』42, pp.60-88, 2020年12月

## 2020年度 院生会活動報告

・仏教学院生会研究発表会 6月19日（金） 於：オンライン

・卒業論文の書き方説明会 10月22日（木）以降

於：オンラインmanaba 卒業論文コース

・修士論文中間発表会 10月27日（火）・29日（木）

於：東覺302教室（オンライン併用）

・仏教学院生会総会 11月21日（土） 於：オンライン

・『龍谷大学佛教学研究室年報』第25号 発行（3月）

本誌は創刊以来、龍谷大学仏教学科の院生の自主的かつ意欲的な姿勢による企画編集を経て、出版を実現してきました。近年は院生の人数減少もあいまって執筆者の減少が顕著でしたが、院生の研究成果を発表できる貴重な場が失われないようにと、毎年の発刊を目標につとめてまいりました。財政難により一時は発刊が危ぶまれた本誌ですが、賛助会員による温かいお力添えのもと、2017年度以降各号に執筆応募が増え、内容の充実した論文雑誌の刊行が継続できております。

ここに『龍谷大学 佛教学研究室年報』第 25 号の事業完了のご報告を申し上げますと共に、龍谷學會及び龍谷大学親和会、そして賛助会員をはじめ、ご協力を賜りました関係各位に対し、謹んで御礼を申し上げます。

2021 年 3 月 吉日 龍谷大学仏教学院生会

## 龍谷大学 佛教学研究室年報 第 25 号

2021 年 3 月 31 日 発行

編集者 龍谷大学仏教学院生会

発行者 龍谷大学仏教学院生会  
〒600-8268 京都府京都市下京区七条通大宮東入大工町  
125-1  
龍谷大学仏教学合同研究室内  
TEL. 075-343-3311 (代)内線 5122

印刷所 株式会社 北斗プリント社  
〒606-8540 京都府京都市左京区下鴨高木町 38-2  
TEL. 075-791-6125

# BULLETIN OF BUDDHIST STUDIES

RYUKOKU UNIVERSITY

No. 25

## CONTENTS

Foreword

Philosophical meanings of Sanskrit Terms Derived from the  $\sqrt{\text{smṛ}}$  Seen in the Early Upaniṣads

HASHIMOTO, Ichido ..... 1

A study of Gaeseong Bulilsa temple ordination platform

LEE, Jinyoung ..... 26

An Annotated Translation of the commentaries on *Mahāyānasamgraha* VII *adhicitta* (1)

SHIMAMOTO, Kotoku ..... 44

Fieldwork Study : The 3 most distinguished Matsu's temples in Taiwan' - Marine Goddess Maso and Chinese Buddhist-

ZHANG, Kai ..... 73

Annotated Translation of *Bhikkhunīwinissaya Sardan* or *Documentation of the Decision on Nuns* compiled by the State Sangha Mahanayaka Committee of Myanmar (first part)

THITSARNANDI ..... 98

Relationship between Dependent Origination and Saṃsāra in Theravāda Buddhism

SHICHI, Akira .....130

Caṇḍāla as a dharma protector

—An example of Esoteric buddhism in *Mahāparinirvāṇa-mahāsūtra*—

YASUKAWA, Mayu .....150

March 2021